

第30回日本遠隔医療学会学術大会

ランチョンセミナー 1

Luncheon Seminar 1

日時

2026年 11月7日(土) 12:00～12:50

会場

第1会場 パシフィコ横浜
アネックスホール2F F205+F206

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

遠隔医療維新

～新しい遠隔医療のかたちを離島へき地から～

座長

高木 俊介 先生

横浜市立大学附属病院 麻酔科 准教授/
集中治療部 部長

演者

原田 昌範 先生

山口県立総合医療センター
へき地医療支援センター センター長

本セミナーはチケット制です。

詳細は学会ホームページをご参照ください。

<https://lesbanc.co.jp/jtta2026/>

共催:第30回日本遠隔医療学会学術大会

フクダ電子株式会社

ランチオンセミナー1

遠隔医療維新

～新しい遠隔医療のかたちを離島へき地から～

原田 昌範

山口県立総合医療センター へき地医療支援センター センター長

離島・へき地の医師不足は年々深刻であり、非常勤化する診療所が増え、医師が不在となる時間帯は、医療へのアクセスが特に制限される。遠隔診療は、元来、離島へき地で限定的に認められてきたが、2018年にへき地等に限らないオンライン診療の指針が整備された。しかし、その利用は都市部に集中し、離島やへき地の活用例は少ない。そこで、厚生労働行政推進調査事業の班長として、2019年から「へき地医療の推進に向けたオンライン診療体制の構築」、2021年から「海外の制度等の状況を踏まえた離島・へき地等におけるオンライン診療体制の構築」を担当し、海外の好事例を参考に山口県内で実証を行った。そして、その効果や課題を整理し、モデルを全国に発信した。

災害ともいえるべきコロナ禍において、国内の医療DXの遅れが表面化した。新型コロナウイルス感染症対策室、保健所長として行政的な立場からも様々な医療課題を経験した。前述の実証事業の経験を活かし、コロナ対策においても医療DXを積極的に活用することで、災害レベルの事態に対応することができた。

コロナ対策で経験した医療DXの取り組みは、第8次保健医療計画のへき地領域にも活かされている。特に人口減少が著しい離島へき地医療では、持続的に医療を確保するため、オンライン診療やオンライン服薬指導、クラウド型電子カルテの導入、医療MaaS、郵便局の活用など、医療DXを積極的に組み合わせている。また、看護師や薬剤師を含む多職種と連携し、離島へき地における遠隔医療の取り組みを休日夜間などの一次救急、災害医療の領域にも応用している。2025年から再度、厚生労働行政推進調査事業の班長を務め、2026年からは「診療科偏在対策のための適切な遠隔医療等推進事業（厚生労働省）」の統括団体を担当中である。本セミナーでは、これまでの取り組みから、これからの「新しい遠隔医療のかたち」を考える。

共催:第30回日本遠隔医療学会学術大会

フクダ電子株式会社